

[成果情報名] ミヤコカブリダニを利用したカーネーションの夏季ナミハダニ防除

[要約] 冬切りカーネーション栽培において、薬剤抵抗性の発達で防除困難なナミハダニに対し、ミヤコカブリダニを放飼することにより夏季のナミハダニを低密度に抑えることができる。

[キーワード] カーネーション、ナミハダニ、ミヤコカブリダニ

[担当] 香川農試・病害虫担当

[連絡先] 電話 087-889-1121、電子メール vd6515@pref.kagawa.lg.jp

[区分] 近畿中国四国農業・生産環境（病害虫）

[分類] 技術・参考

[背景・ねらい]

冬切りカーネーション栽培では、薬剤抵抗性の発達によりナミハダニの防除に苦慮するとともに、頻繁に行われる防除作業は生産者の負担となっている。そこで、ナミハダニに対する薬剤抵抗性の発達回避と夏季防除作業の軽減を図るため、天敵ミヤコカブリダニの利用を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 冬切りカーネーション栽培において、6月中旬からミヤコカブリダニを（約 2000 頭/10 a）を 1～2 週間間隔で 3 回放飼することにより、放飼開始約 1 ヶ月後からナミハダニ密度が低下し、9 月上旬まで低密度に抑制することができる（[図 1](#)、[2](#)）。
2. ミヤコカブリダニの放飼は夏季のナミハダニの密度を薬剤防除と同等に抑制することができ、夏季防除作業の軽減が図れる（[図 3](#)）。

[成果の活用面・留意点]

1. 放飼は、ハダニが増え始める、摘心後側枝が伸長し始めた頃、あるいは 2 年切り栽培では株の刈り込み後に行う。
2. 放飼開始時にナミハダニの被害が散見される場合は、ミヤコカブリダニに影響の少ない剤を散布し密度を下げてから放飼する。
3. 出蕾期（9 月中旬頃）以降のナミハダニの増加は品質に影響するため、化学薬剤での防除に切り替える。
4. ミヤコカブリダニ放飼後、土着天敵であるハダニアザミウマが自然発生してナミハダニの密度抑制を補完することがある。
5. ミヤコカブリダニ剤のカーネーションにおけるナミハダニに対する登録は準備中である（平成 19 年 1 月現在）。

[具体的データ]

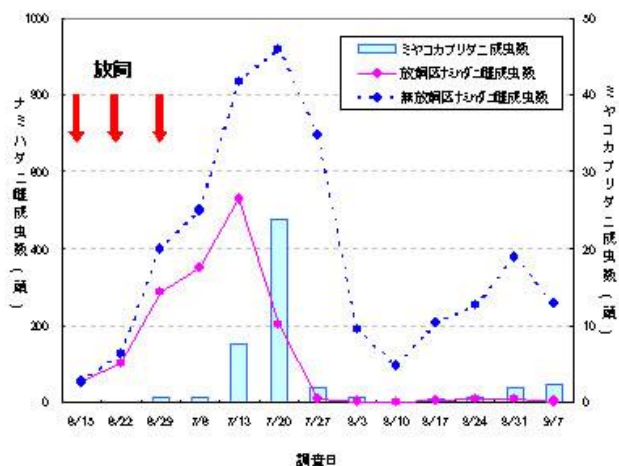


図1 ミヤコカブリダニ放飼と無放飼によるナミハダニ抑制効果とミヤコカブリダニの密度推移(2006年)

注1) 小型隔離ベンチ(0.9×1.4m)の3反復で行った。2年切り栽培で行い、6月8日に株を刈り込んだ。天敵は6月15日、22日、29日に1回当たり約2000頭/10aを放飼した。
 注2) ベンチ当たり72葉の虫数を見取り調査し、その合計値を示した。
 注3) 両区にハダニアザミウマが発生し、ミヤコカブリダニだけの効果を確認するため7月12日にピリダリル水和剤を散布した。その後、無放飼区へのミヤコカブリダニの移動とハダニアザミウマ再発生のため、7月31日、8月31日にアセフェート水和剤を散布した。

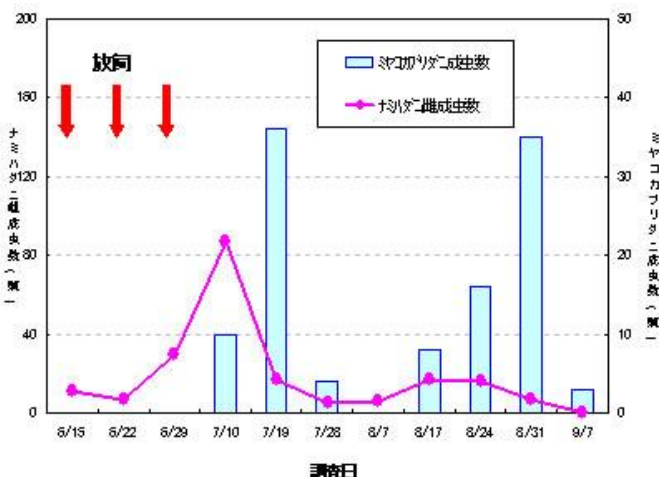


図2 現地圃場におけるミヤコカブリダニ放飼によるナミハダニ抑制効果とミヤコカブリダニの密度推移(2006年)

注1) 高松市内の農家圃場(ビニルハウス)200㎡で行った。2年切り栽培で行い、6月12日に株を刈り込んだ。天敵は6月15日に約4000頭/10a、6月22日、29日に約2000頭/10aを放飼した。
 注2) 圃場内10カ所(10株)で払い落とし調査し、その合計値を示した。

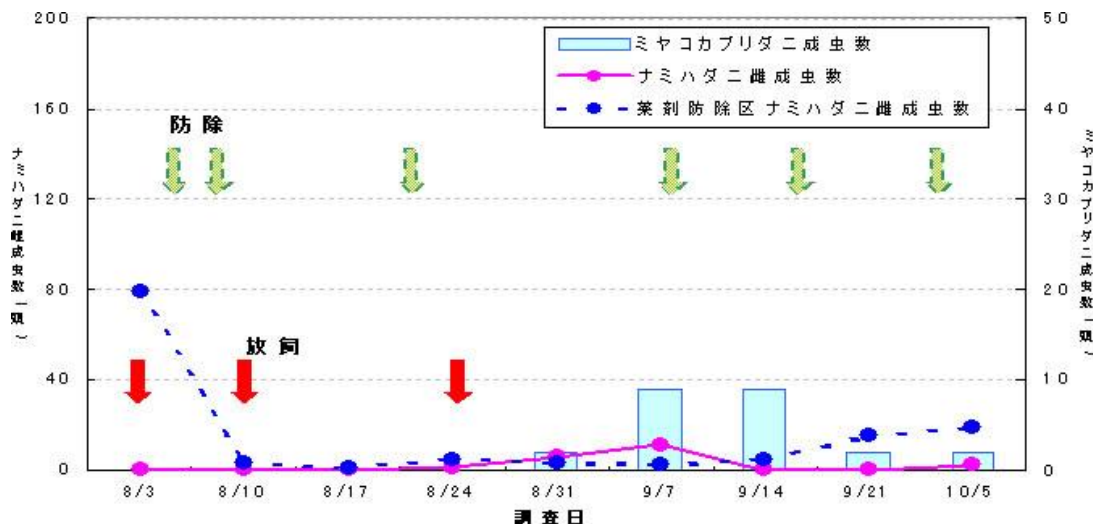


図3 現地圃場におけるミヤコカブリダニ放飼と薬剤防除によるナミハダニ抑制効果とミヤコカブリダニの密度推移(2006年)

注1) 高松市内の農家圃場(ビニルハウス)で行った。面積:放飼区(200㎡) 薬剤防除区(230㎡)。定植:薬剤防除区6月23日、放飼区7月1日。摘心:薬剤防除区7月8日、放飼区7月15日。天敵は8月3日、10日、24日に1回当たり約2000/10aを放飼した。
 注2) 圃場内10カ所(10株)で払い落とし調査し、その合計値を示した。
 注3) 点線の矢印は薬剤防除区におけるナミハダニの防除を示し、8月4日、8日、23日、9月8日、17日、29日に薬剤散布した。

[その他]

研究課題名 : 病害虫総合防除技術の確立に関する研究

予算区分 : 県単

研究期間 : 2005～2007年

研究担当者 : 森田知子、楠 幹生、松本英治

発表論文等 : 森田・松本(2005) 四国植物防疫研究 40:54 (講要)
 : 森田ら(2006)第16回天敵利用研究会(講要)